

この本の効果的な使い方

この「演習問題集（基本編）」国語は、「予習シリーズ」の各回の単元に合わせてつくられています。

《文章読解》の文章および設問の難度は、「予習シリーズ」に比べて易しく、取り組みやすいレベルで構成されています。

《言語要素》は、「予習シリーズ」の中の重要事項を厳選し、各回見開きの二ページに収めてあります。

ですから、「予習シリーズ」の学習を終えてから、または「予習シリーズ」と併用することで、国語の《基礎力》を補強することができます。

◎《文章読解の学習》

まず第一に、「予習シリーズ」・学習課題の解説を再読してください。各回の学習課題の解説には、文章の《読み方》の基本が説明されています。《読み方》の手順や注意の配り方などの基本ルールを確認しておきましょう。その上で、この本の、

1 文章を音読する

音読によって、読めない漢字や熟語、意味のわからない語句や表現などを発見し、まず、字面で《読める》《わかる》状態をつくりま

2 文章内容の正確な理解を成立させる

辞書・事典を調べたり、身近な大人に質問したりして、語句の意味から文章内容まで、可能なかぎり正確な理解を成立させます。

3 問いに答えることで理解を確認する

《問い》に対する《答え》そのもの、あるいは《答え》を導くためのヒントは、すべて文章中にあります。《文章↓設問↓正解》を結び糸を発見することが、文章読解問題を解く基本作業です。解答は、巻末の解答用紙に記入し、解答用紙にきちんと書く習慣をつけましょう。

4 「解答と解説」を読んで理解を深める

×だった問題を大事にしましょう。解説をヒントに読み直し、考え直し、解き直す——自分の弱点克服の出発点です。

◎《言語要素の学習》

さまざまな言葉に関する知識の学習です。覚えることが中心です。反復練習によって定着度を高めるように努めましょう。言語要素の問題については、解答が直接記入できるように、解答らんがついていません。

目次

〈文章読解の学習〉

第1回	説明文・論説文(1)	6
第2回	説明文・論説文(2)	10
第3回	物語・小説(1)	13
第4回	物語・小説(2)	17
第5回	総合	21
第6回	詩・短歌・俳句	25
第7回	随筆文(1)	29
第8回	随筆文(2)	32
第9回	総合	35
第10回	自然と人間(1)	39
第11回	自然と人間(2)	42
第12回	言葉と文化	46
第13回	異文化との出会い	49
第14回	総合	53
第15回	人と人との間に(1)	56
第16回	人と人との間に(2)	61
第17回	人と人との間に(3)	65
第18回	総合	69

〈言語要素の学習〉

第1回	かなづかい・送りがな・漢字の部首・画数・筆順	74
第2回	同音異字・同音異義語	76
第3回	同訓異字	78
第4回	特別な読み方のことば・難しい読み方のことば	80
第5回	総合	82
第6回	暦の知識	84
第7回	慣用句・ことわざ・故事成語	86
第8回	熟語の組み立て・三字の熟語・四字の熟語	88
第9回	総合	90
第10回	類義語・対義語	92
第11回	ことばのきまり(1)・文節の役割	94
第12回	ことばのきまり(2)・単語の学習①	96
第13回	ことばのきまり(3)・単語の学習②	98
第14回	総合	100
第15回	手紙文・敬語	102
第16回	日本の文学史・文学作品の知識	104
第17回	語句の意味・用法	106
第18回	総合	108

解答と解説	〈文章読解の学習〉	112
解答用紙	〈言語要素の学習〉	150
		159

文章読解の学習



◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。①～⑩は形式段落の番号を示します。

① ホンソメワケベラというスマートな小魚がいる。せいぜい七、八センチの小魚で、左右にやや平たく細長い体をしている。背と腹は明るいマリンブルーで、体の左右に頭から尾端まで、一条の幅広い真つ黒な帯が通っている。おまけに、尾だけを上下に振る「うなずきダンス」を踊る。とにかく、よく目立つ魚なのだ。

② ホンソメワケベラには、他の魚の体表についていた異物をとって食べる習性がある。他の魚も、そのことを知っているらしくて、寄生虫やゴミや吹き出物がついているとか、傷跡がなおりにくいとか、世話をしてもらいたい魚たちが、ホンソメワケベラの居所を求めて集まって来る。

③ ホンソメワケベラの応対ぶりが、また、懇切丁寧ときている。相手の体中を丹念に見て回って、寄生虫などはもちろん、なにかわからないが、とにかく気になるものはみな、つまみとってしまおうとする。で、とってはいけない小さなひげまで気にして、一生懸命ひっぱっている。①、ホンソメワケベラが診察してくれるのは、⑤体表だけではない。歯の根元、えらの付け根、口腔粘膜までもが、③そのレパートリーに入る。おそれげもなく、大きな魚の口の中に入っている。なかなか出て来ないときもある。

④ ホンソメワケベラの仕事は、してもらおう魚の側にとっては、すこぶる気持ちがいいらしい。すっきり安心しきっていて、なかに

は、恍惚状態に陥っているとした見えない魚もいる。④ ヨウウオやタカノハダイは、うっとりして、体のバランスを失って横倒しになってしまったり、ハタの類は口の中を掃除してもらって、口とえらぶたを大きく開け過ぎ、すぐにはしまらなくなったり、バタバタ慌てていたりする。ダイバーが近付いたのを警戒して、ホンソメワケベラが逃げて行ってしまっても、しばらくは気がつかずに

⑤ ホンソメワケベラが他の魚の療治をする居場所というのが、ある程度は決まっているらしい。ホンソメワケベラがよく目立つシンブルで派手な体色と、独特の「うなずきダンス」が、いい看板になっているのだろう。少し離れたところで見ていると、ホンソメワケベラはほとんど同じ場所について、次から次へと来客がある。ただ今治療中のお客の近くに、別のお客が順番の空くのを待っていることもある。

⑥ ホンソメワケベラは、夜はどこかに潜り込んで寝てしまう。② なおさら、限られた時間にだけオープンしているホンソメワケベラ・クリニックは、千客万来で忙しい。あるサンゴ礁のあるクリニックには、⑥六時間に三〇〇ぴきもの魚が療治にやってきたという。

⑦ ホンソメワケベラと他の魚との関係を、⑦クリーニング・シンピオシス(掃除共生)という。「掃除」というより「療治」という方が正しいように思えるのだが、掃除習性をもつ生きものは意外に多く、魚だけでも、五〇種ほど知られている。

⑧ さて、この共生、療治をしてもらっている側には、確かに利益がある。水族館に巨大なクエと何びきかのホンソメワケベラを入れてやると、クエは元気に長く生きていくことができる。ホンソメワケ

ベラなしだと、クエはそのうち、どこか具合が悪くなってしまいや
すい。一方で、療治をする側の⑧ ホンソメワケベラにとっての利益
は、⑨ そうやって他の魚の体表からえさを得ていることがまず第一。
あるいは敵を作らずに済み、敵となるものからのプレッシャーを受
けずに済んでいる利点もあるはずだ。

50

⑨ 3、ホンソメワケベラの掃除共生が、どのようにして成立し
たのか考えてみよう。まず、ホンソメワケベラには、生来、口でつ
まみとれそうなものはなんでも引っ張ってみる強い好奇心と、気に
なるものがあると放っておけないこだわり強さと、相手の思惑に
頓着しない、臆面のなさがあるようだ。

55

⑩ 水槽の中に、ホンソメワケベラと別の魚を入れると、ホンソメワ
ケベラは相手かまわず近付いて、すぐにも療治を始めようとする。
水槽の中だからだろうか。相手によっては、ホンソメワケベラのお
節介をいやがることもあるが、※ 委細かまわず自分のペースに引き
込んでしまう。おそらく、自然の海の中でも、こんなふうなホンソ
メワケベラの積極的な接近が前提になって、長い年月をかけてこ
ういう習性が成立したのだろう。ホンソメワケベラに特有のシンプ
ルで派手な色彩や、目立つためとしか見えないダンスなども、共
生の成立に役立ったはずである。

60

(鈴木克美「魚は夢を見ているか」より)

※口腔粘膜……口からのどにかけての内側の粘膜。

※恍惚状態……心をうばわれてうっとりするさま。

※頓着……気にしてこたわること。

※臆面……気おくれすること。

※委細かまわず……遠慮なく。

問一

1、3 にあてはまる接続語として最も適切なものを次

からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ しかも ウ それで

エ なぜなら オ ところで

問二

①段落についての説明として最も適切なものを次から選び、記
号で答えなさい。

ア aの文の内容に対する感想を、b、eの文でつけ加えている。

イ aの文であげたことがらに対して、b、eの文で説明を加え
ている。

ウ aの文とは対照的なことがらを、b、eの文で示している。

エ aの文の内容に関する具体例を、b、eの文であげている。

問三

——線①「そのこと」が指している内容を、文章中の言葉を使
って、四十字以内で答えなさい。

問四

——線②「ホンソメワケベラの応対ぶりが、また、懇切丁寧と
きている」とありますが、どのような点が「懇切丁寧」といえる
のですか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 体表だけではなく、歯の根元や口の中まで掃除してくれる点。

イ 相手がやってくれば、どんなときでも異物をとりのぞいてく
れる点。

ウ 寄生虫やゴミだけでなく、ついてくるものは何でもとり落と
す点。

エ 自分がとりたいものだけを選んで、とりのぞこうとする点。

オ 相手が十分に安心しきってから、掃除にとりかかろうとする点。

問五 — 線③「その」が指している内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ホンソメワケベラの居所の
- イ ホンソメワケベラの習性の
- ウ ホンソメワケベラの診察の
- エ ホンソメワケベラの利益の

問六 ④段落の中心文はどれですか。A～Dから選び、記号で答えなさい。

問七 — 線④「ボンヤリしていたりする」とありますが、何が「ボンヤリしていたりする」のですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 掃除をしているホンソメワケベラ
- イ ホンソメワケベラの掃除の順番を待っている魚
- ウ ホンソメワケベラを観察するダイバー
- エ ホンソメワケベラに掃除をしてもらっていた魚

問八 — 線⑤「ホンソメワケベラが他の魚の療治をする居場所」とありますが、これを比喩を使って言いかえている部分を、十五字程度でぬき出して答えなさい。

問九 — 線⑥「六時間に三〇〇ぴきもの魚が療治にやってきた」とありますが、この部分からどういことがわかりますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ホンソメワケベラが一匹の魚を掃除する時間が思ったよりも短いこと。
- イ ホンソメワケベラの掃除を特に必要としているのがサンゴ礁の魚たちであること。
- ウ ホンソメワケベラに掃除をしてもらおうとする魚の数がたいへん多いこと。

エ ホンソメワケベラが掃除をする時間が限られているため、お客があふれてしまうこと。

問十 — 線⑦「クリーニング・シンビオシス（掃除共生）」について、これより後の部分から答えなさい。

- (1) 他の魚と「クリーニング・シンビオシス」の関係をもつようになったのは、ホンソメワケベラにどのような性質があるためだと筆者はのべていますか。それが書かれた一文をぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

(2) (1)のような性質以外にも、「クリーニング・シンビオシス」の関係をもつのに役立つと筆者が考えているホンソメワケベラの特徴があります。三十字以内でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問十一 — 線⑧「ホンソメワケベラにとっての利益」とはどのような

なことですか。文章中の言葉を使って、三十字以内で答えなさい。

問十二 —— 線⑨「そうやって」が指している内容として最も適切な

ものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 他の魚の具合を悪くすることによって
- イ 他の魚を襲わずにいることによって
- ウ 他の魚を長生きさせることによって
- エ 他の魚の掃除をすることによって

って生きているということ。
エ ホンソメワケベラと他の魚たちが、長い間ずっといっしょに生活しているということ。

問十三 —— 線⑩「積極的な接近」とありますが、「ホンソメワケベラ」

のどのような点をこのように表現しているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 派手な色彩やダンスによって自分の存在をうったえる点。
- イ 自然の海はもちろん水槽の中でも自分の習性を発揮する点。
- ウ 治療する時間や場所を自分のペースで選んでしまう点。
- エ 相手かまわず自分の持っている習性を発揮してしまう点。

問十四 —— 線⑪「共生の成立に役立ったはずである」とありますが、

「共生」とはどのようなことを表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ホンソメワケベラの習性を利用することで、他の魚が健康をたもっているということ。
- イ ホンソメワケベラと他の魚たちが、おたがいに利益をあたえ合って生きているということ。
- ウ ホンソメワケベラは、他の魚から上手に利益を得ることによ

《文章読解の学習》

第1回

説明文・論説文(1)

「6ページ」

(出典：鈴木克美「魚は夢を見ているか」より)

問一 1 前の部分には、ホンソメワケベラが、相手の体の表面を診察することが書かれていて、後の部分には、それだけでなく、「歯の根元、えらの付け根、口腔粘膜までも」診察することが付け加えられています。

2 後ろに書かれている「限られた時間にだけオープンしているホンソメワケベラ・クリニックは、千客万来で忙しい」ということの理由が、前に書かれている「夜はどこかに潜り込んで寝てしまう」ということなので、順接の関係でつながっています。

3 前の⑧段落は、掃除共生の利点について述べられていますが、⑨段落では、掃除共生がどのようにして成立したのか、ということに話題が変わっているため、転換の接続詞が入ります。

問二 aの文でホンソメワケベラという魚を紹介し、b、dでその特徴(形・体色・ダンス)を順に説明しています。eはb、dをまとめた文です。aであげられたことがらについて、順に説明しているわけですから、イが正解です。

問三 直前の内容を指している、基本的な指示語の設問です。「他の魚」が「何」を「知っている」のかまとめます。直前の一文を利用し、「ホンソメワケベラが、他の魚の体表についた異物をとって食べる習性をもっていること」といった解答になります。指示語の設問で

すから、自分の言葉にたよらずに、できるだけ文章中の表現を生かしてまとめましょう。

問四 「ホンソメワケベラの応対ぶり」は③段落に書かれています。「気になるものはみな、つまみとってしまおうとする」(IIウ)、「診察してくれるのは、体表だけではない。歯の根元、えらの付け根、口腔粘膜までもが、そのレパトリーに入る」(IIア) 点で「懇切丁寧」なのです。

問五 「体表だけでなく、「歯の根元、えらの付け根、口腔粘膜までも」の三つが「何」の「レパトリー」なのか考えます。いずれも、ホンソメワケベラが「診察(掃除)」してくれる場所ですね。

問六 Aの文で「ホンソメワケベラの仕事は、してもらう魚の側にとっては、すこぶる気持ちがいいらしい」という考えを示し、B、Dで、Aのように考える根拠となる魚の様子を具体的に説明しています。よって、Aが中心文といえます。

問七 ④段落を正確に読みとります。ホンソメワケベラの掃除があまりに心地よいため、「掃除をしてもらっていた魚」が、ホンソメワケベラが逃げて行ってしまったあとも、ダイバーが近付いたのに気づかず、しばらくボンヤリしていることがあるほどだ、ということです。

問八 「療治をする居場所」を、人間の病院にたとえて、「クリニック(II診療所)」と表現しています。

問九 「あるサンゴ礁のあるクリニック」の具体例をあげて、直前で述べた「ホンソメワケベラ・クリニックは、千客万来で忙しい」という内容を裏付けています。「サンゴ礁」の場合を説明したいわけではありません。

問十 (1) ⑨段落で、「ホンソメワケベラの掃除共生がどのようにして

成立したのか」と、問題を提起して、「強い好奇心」と「こだわり強さ」と「臆面のなさ」が「掃除共生」の要因だと述べています。

(2) ⑩段落の「くなども、共生の成立に役立ったはずである」に注目しましょう。①・⑤段落にもあるように、「派手な体色」と「うなぎダンス」のために、ホンソメワケベラはよく目立つのです。そうした、他の魚とはっきり区別できる姿も共生の成立に役立ったでしょう。療治を受ける魚が、ホンソメワケベラを他の魚とまちがえて食べてしまうようなことがあつては、「クリーニング・シンビオシス」は成り立ちません。

問十一 傍線部⑧の直後の「くことがまず第一。く利点もあるはずだ」という表現に着目しましょう。つまり、「利益」は二つあります。一つは「他の魚の体表からえさを得ていること」、もう一つは「敵を作らずに済み、敵となるものからのプレッシャーを受けずに済んでいる」ことです。字数指定に注意しながら、大切な内容を落とさないようにまとめます。

問十二 「そうやって他の魚の体表からえさを得ている」とありますから、どうすることがえさを得ることにつながるのか考えましょう。他の魚の療治をするということは、その魚の悪い部分をホンソメワケベラが掃除し、食べてしまうということです。「掃除」の結果「他の魚を長生きさせる」のであって、「長生きさせる」ことによってえさを得ているわけではないので、ウは×。

問十三 直前の「こんなふうな」という指示語が指している内容を確認しましょう。「委細かまわず自分のペースに引き込んでしまう」ような「積極的な接近」ということになりすから、これを言いかえたエが正解です。

問十四 問十・十一とも関連します。⑧段落にあるように、ホンソメワケベラの掃除によって、他の魚たちは健康を保つことができます。一方のホンソメワケベラは、掃除をすることで、えさを得たり、敵を作らずに済んだりします。こうしたホンソメワケベラと他の魚の「おたがいに利益をあたえ合って生きている」関係を、「共生」と表現しています。

問一 1 イ 2 ウ 3 オ

問二 イ

問三 例 ホンソメワケベラには、他の魚の体表についた異物をとって食べる習性があること。

問四 ア・ウ (不順可)

問五 ウ

問六 A

問七 エ

問八 ホンソメワケベラ・クリニック

問九 ウ

問十 (1) まず、ホン

(2) シンプルでくないダンス

問十一 例 えさを得ることと、敵からのプレッシャーを受けずに済むこと。

問十二 エ

問十三 エ

問十四 イ